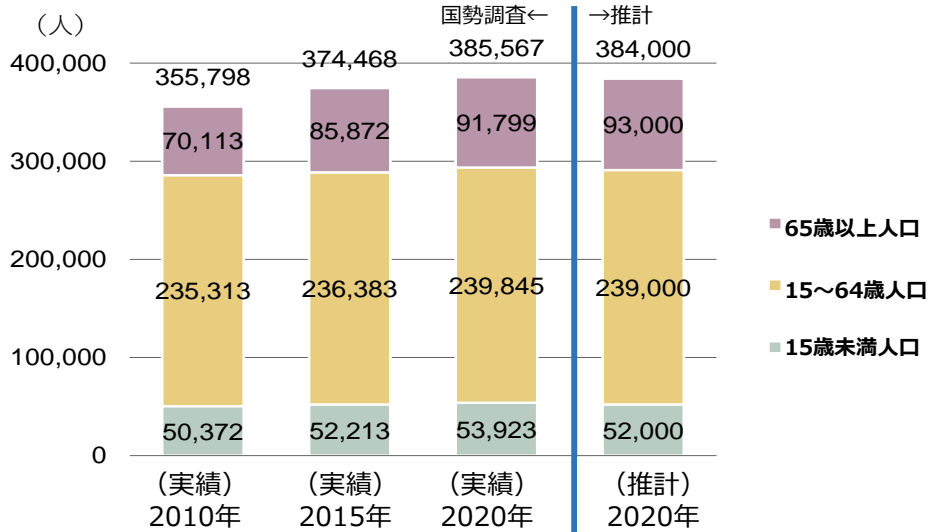


第4次総合計画 進捗状況

1 人口推計

- 2020年実績値は推計値よりも総人口で約1,500人上回った。
- 2010年～2020年の10年間で総人口で約3,000人増加している。



大綱	施策指標の進捗 (R3年度実績評価)					
	S	A	B	C	判定不能	S・A・Bの割合
1 人権・平和	1	1	5	3	0	70%
2 防災・防犯	0	1	3	2	0	67%
3 福祉・健康	1	2	6	4	2	60%
4 子育て・学び	0	5	7	3	0	80%
5 環境	0	4	1	0	1	100%
6 都市形成	1	7	1	2	2	69%
7 都市魅力	0	3	8	0	1	92%
8 行政経営	0	4	1	0	0	100%
合計	3	27	32	14	6	76%

2 大綱ごとの進捗状況

- 全指標82のうち、S評価3、A評価27、B評価32、C評価14、判定不能6となった。
- C評価については、14指標となり、そのうち11指標については、コロナ禍の影響により、事業の参加者数や施設の利用者数が目標を大きく下回るようになったことが主な原因。
- S・A・B評価76%で計画の最終年度には目標を達成する見込み。

【C評価となった施策指標】※赤字下線部分が新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響によると思われるもの

- 大綱1：平和祈念資料館の年間利用者数／講演会などへの年間参加者数／自治会加入率
- 大綱2：普通救命講習などの年間受講者数／消費者向けの講座の年間受講者数
- 大綱3：認知症サポーターの養成数／小地域ネットワーク活動の延べ参加者数／福祉避難所の支援を行うボランティアの人数／地域医療推進に関する講演会などの参加者数
- 大綱4：青少年指導者講習会の年間受講者数／太陽の広場などの年間参加者数／市民大学講座の年間受講者数
- 大綱6：「みどりの協定」に基づく取り組みなどを行う団体数／自転車通行空間の整備延長

S：目標を大きく達成している、又は目標の達成に向けて計画以上に進んでいる。
 A：目標を達成している、又は目標の達成に向けて計画どおり進んでいる。
 B：目標を達成していない、又は目標の達成に向けた進捗が少し遅れているが、計画最終年度には目標を達成する見込みである。
 C：目標を大きく下回っている、又は目標の達成に向けた進捗が遅れており、取組の強化が必要である。
 判定不能：調査未実施、調査結果未判明

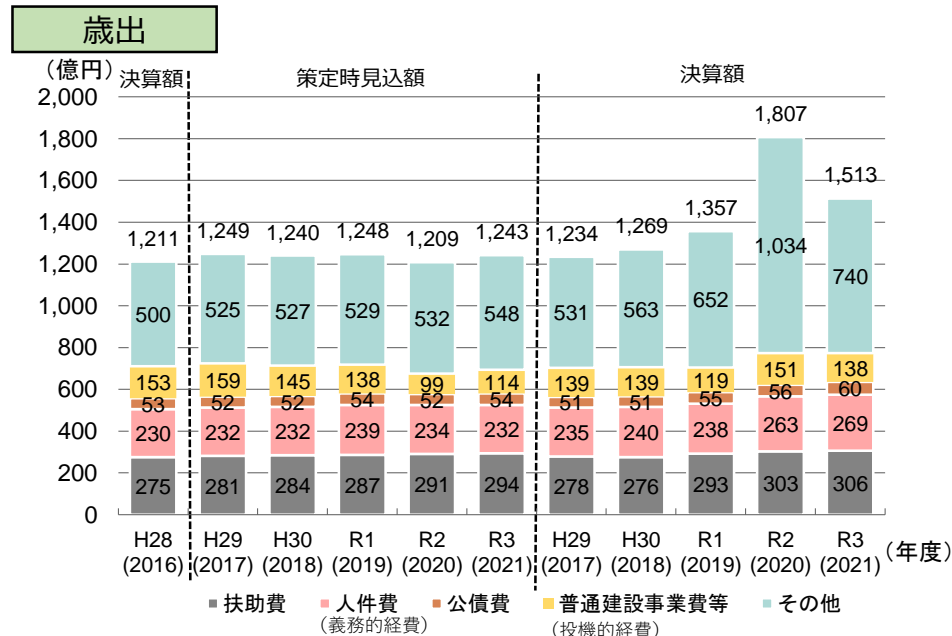
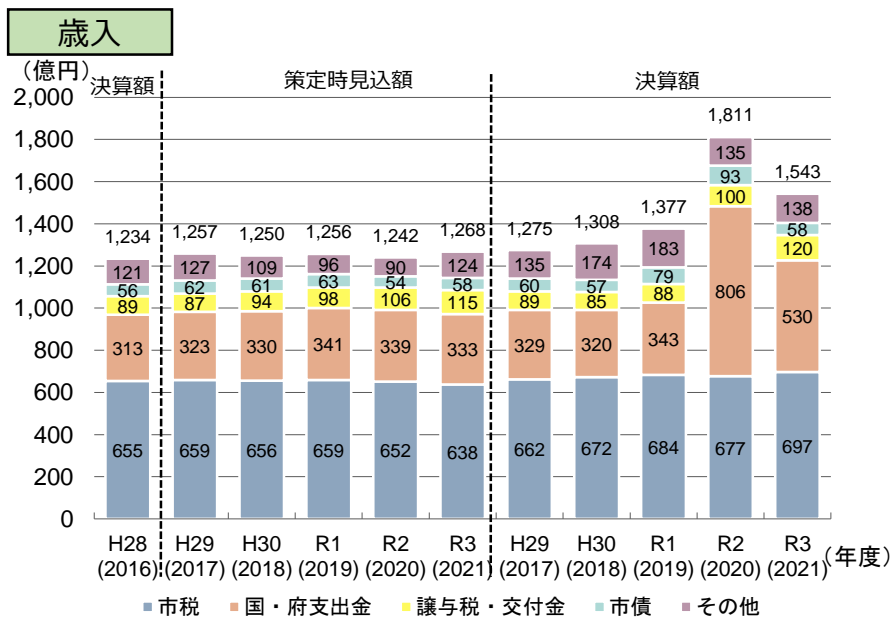
3 財政運営の状況

R3年度は、前年度に引き続き新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響が見られたものの、市税及び普通交付税の増加等により、赤字地方債（臨時財政対策債）の発行は抑制することができた。

経常収支比率についても、前年比で1.3ポイント改善し、すべての目標を達成できた。

指標	策定 (H28)	R1実績	R2実績	R3実績	目標
経常収支比率※ ₁	95.6%	96.7%	95.2%	93.9%	95%以下
財政調整基金※ ₂ の残高	106億円	134億円	128億円	130億円	100億円を確保
公債費比率※ ₃	7.5%	7.6%	7.4%	7.5%	10%以下
市債残高の標準財政規模※ ₄ に対する割合	66.2%	72.1%	73.9%	70.1%	100%以下
赤字地方債※ ₅ の発行	発行なし	発行なし	17.0億円	発行なし	極力抑制

- ※1 経常的な収入のうち、義務的経費などの支出に使われる費用の割合を表す指標。この比率が高いほど、財政構造の硬直化が進んでいると言える。
- ※2 経済状況の変化による収入の減少、災害の発生等不測の事態に伴う支出の増加などに対応し、継続して安定的な財政運営ができるよう確保しておくもの。
- ※3 公債費の標準財政規模に対する割合を表す指標。この比率が高いほど、財政構造の硬直化が進んでいると言える。
- ※4 地方公共団体が通常水準の行政活動を行う上で必要な一般財源の総量で、標準税収入額に普通交付税と臨時財政対策債発行可能額を加えた額。
- ※5 財源不足に対応するため特例的に発行する市債。



※補てん額(財政調整基金の取崩額)を加味していないため、差引額(歳入合計-歳出合計)は0になりません。